



保水性のあるブロックで舗装、ヒートアイランド現象を軽減

土の要らない『土NO袋』の技術を取り入れ、透水性と保水性を併せ持つ舗装方を開発。路面温度の上昇を抑える効果が実証された。

本業の動向について

作業用手袋の滑り止め加工・その他作業用品の製造を行っている。

作業用手袋は海外の協力工場での生産が殆どで、売り上げの80%を占める主力商品である。円高の影響もあり、各種製造業の工場稼働率の低下によって作業用手袋の消費量が減少している。手袋の売上高は昨年比で10%ほど減少している。

公設研究機関との連携事業について

連携先公設研究機関の名称

- ・富山県工業技術センター生活工学研究所
- ・富山県立大学

所在地

富山県南砺市福野町岩武新 35-1 (生活工学研究所)
富山県射水市黒河 5180 (富山県立大学)

連携内容

新高清掃株式会社が廃プラスチックをリサイクルする為に開発した舗装用ブロックに、当社が開発した土の要らない『土NO袋』の技術を組み込んだ。それによって保水性と透水性を併せ持ったヒートアイランド現象を軽減する舗装工法を開発することを目指した。

連携した動機やきっかけ

新高清掃株式会社様から、透水性インターロッキングブロックと弊社の『土NO袋』を組み合わせ、都市型水害対策とヒートアイランド現象を軽減する工法を確立させたいとの提案を受けて始まったものである。様々な実験を重ねて開発に成功したが施行単価が高いため、今後の継続研究が必要である。

連携の効果

公設機関との共同研究であることが、助成金の申請にプラス材料になったこと。

連携して最も効果のあったこと

公設機関の実証試験で得たデータは信頼性が高く、開発技術に関する賞も受賞できたことなど、対外的な

信用度のアップに役立ったことが挙げられる。

連携して最も困難だったこと

公設機関は多くの研究課題を持っておられるので、ひとつの開発案件をより早く完成させたい企業側との時間に対する感覚の違いには戸惑いを感じたこと。また、助成金の使途に関する制限が厳しかったこと。

連携するメリット・デメリットについて

メリットとしては助成金を受けようとする際に、公設機関との共同開発・研究であることはプラスに作用すると思う。更に、研究テーマ別の専門知識を持った方の人脈を持っているので紹介を受け易いこと。

デメリットとしては求めるスピード感に違いがあること。

連携に際しての注意、アドバイスなど

自社の基幹事業が堅調な時にこそ新規事業の展開を試みるべき。公設機関に全て頼りきった状態では共同開発は成立しないので、シビアな計画を持たずに共同開発を依頼するのは禁物である。

公設研究機関との連携で行政に望む支援

契約手続きなどの書類作成が非常に煩雑で量も多く、かなりの労力を割かれたので、手続きの簡略化をして頂けると大変助かる。

会社概要

設立:昭和63年7月

資本金:1,000万円

従業員数:31名

URL:<http://www.e-maruwa.biz/>